

インターバンクの声（2015年8月21日）

やはり昨日の米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨の結果を引きずったまま、ロンドン、ニューヨーク市場でもドルの対円、ユーロでの軟調地合いが続いた。為替市場以上に軟調となったのが欧州とニューヨークの株式市場。欧州株は英国の小売売上高が事前予想を下回ったこともあって、英 FT100 も独 DAX も大幅に値を下げた。その後、NY ダウもオープンから下げっ放し。中国・上海株が再び大幅下落となって景気減速への懸念が本格化しつつあることが欧米の株式市場にも大きく影響し始めているようだ。どうも米 FOMC 議事要旨に対する反応よりも、中国経済の先行き不安がリスクセンチメント悪化の大元になっているようだ。米 FOMC 議事要旨にも中国経済の減速を警戒する指摘が記されており、前回 FOMC 後の上海株の大幅な値下がりや人民元の切り下げ、ましてや中国社会の構造上の問題とも思えるような天津での大爆発などを意識すれば、投資家が今までのリスク・アロケーション変更を考える節目に差し掛かっていることも考えられる。週末、週初の中国・上海株の値動きと周辺国金融市場の変化に注目したい。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。